

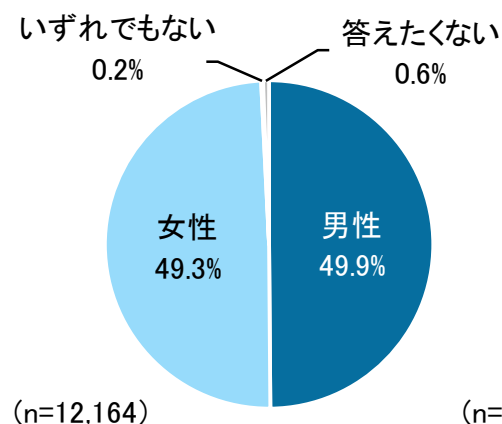
東京iCDCリスクコミュニケーションチームによる 都民1万人アンケート調査結果（2025年2月実施）

- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象：東京都に住所を有する20代から70代までの者
- サンプルング方法およびサンプル数：
 - ・ 性別・年齢構成・居住地を東京都の人口比率に合わせた割当抽出
 - ・ **12,164 サンプル**
- 調査期間：2025年2月7日（金）～2月17日（月）……11日間
- 調査項目：
 - 新型コロナの経験・後遺症
 - 新型コロナに関する気持ち
 - 現在の感染症対策
 - 薬剤耐性・抗菌薬・抗生物質
 - 感染症に関する情報について
 - 災害発生時の感染症対策
 - 新たなパンデミックへの考え・備え など

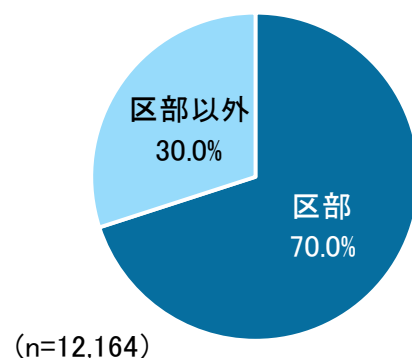
有効回収票についての基本属性

有効回答票n=12,164

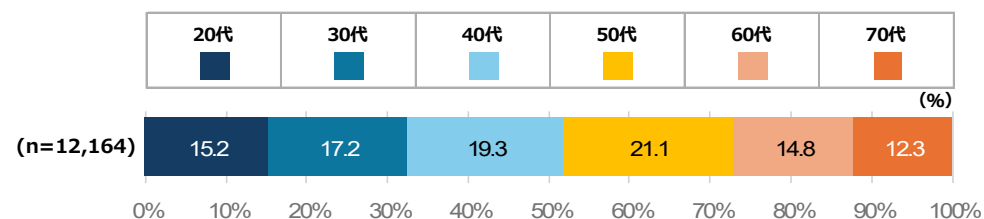
回答者の性別



回答者の居住地



回答者の年代



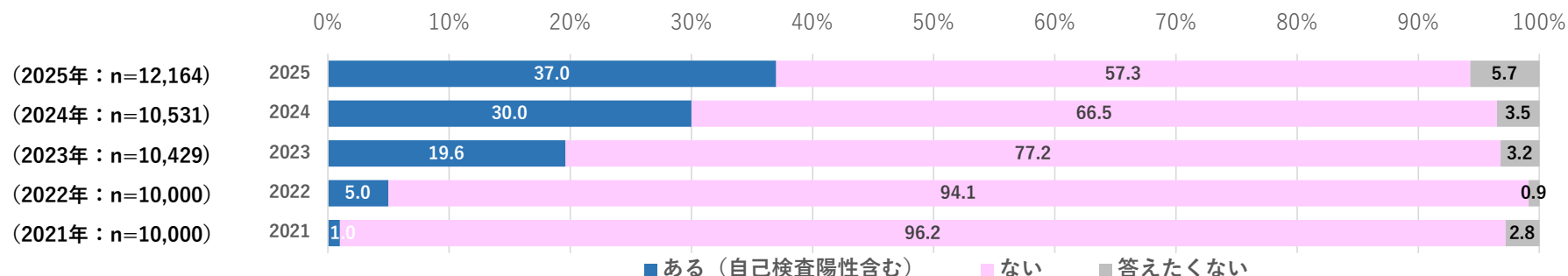
回答者の職業

(単位 %)

管理的職業従事者	7.3
専門的・技術的職業従事者	12.3
事務従事者	17.3
販売従事者	4.2
サービス職業従事者	11.5
保安職業従事者	0.7
農林漁業従事者	0.1
生産工程従事者	1.5
輸送・機械運転従事者	1.0
建設・採掘従事者	1.0
運搬・清掃・包装等従事者	1.9
分類不能の職業	3.5
専業主婦・主夫	12.6
学生	2.6
無職	15.0
答えたくない	7.5
全体	100.0

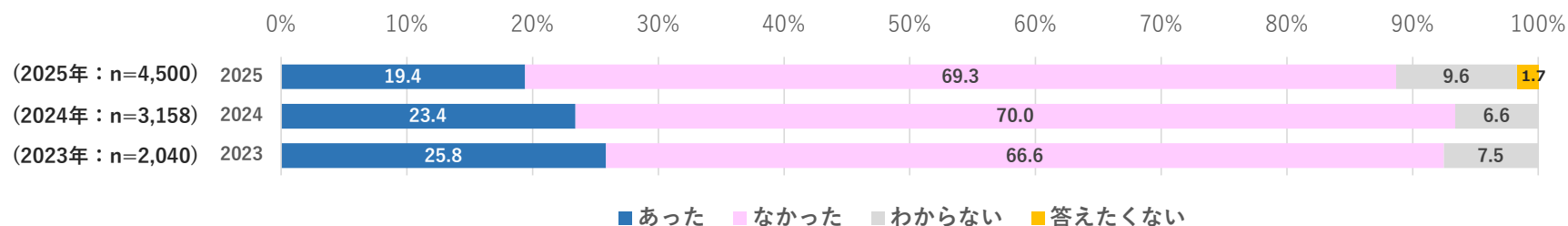
※本調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計をしても必ずしも100とはならない。

あなたは、新型コロナ陽性と判定されたことがありますか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。



◆ 回答した人のうち、陽性との判定を経験した人は **37%** (n=4,500)。(回答者に占める割合は、2021年2月の調査時点から年々増加)

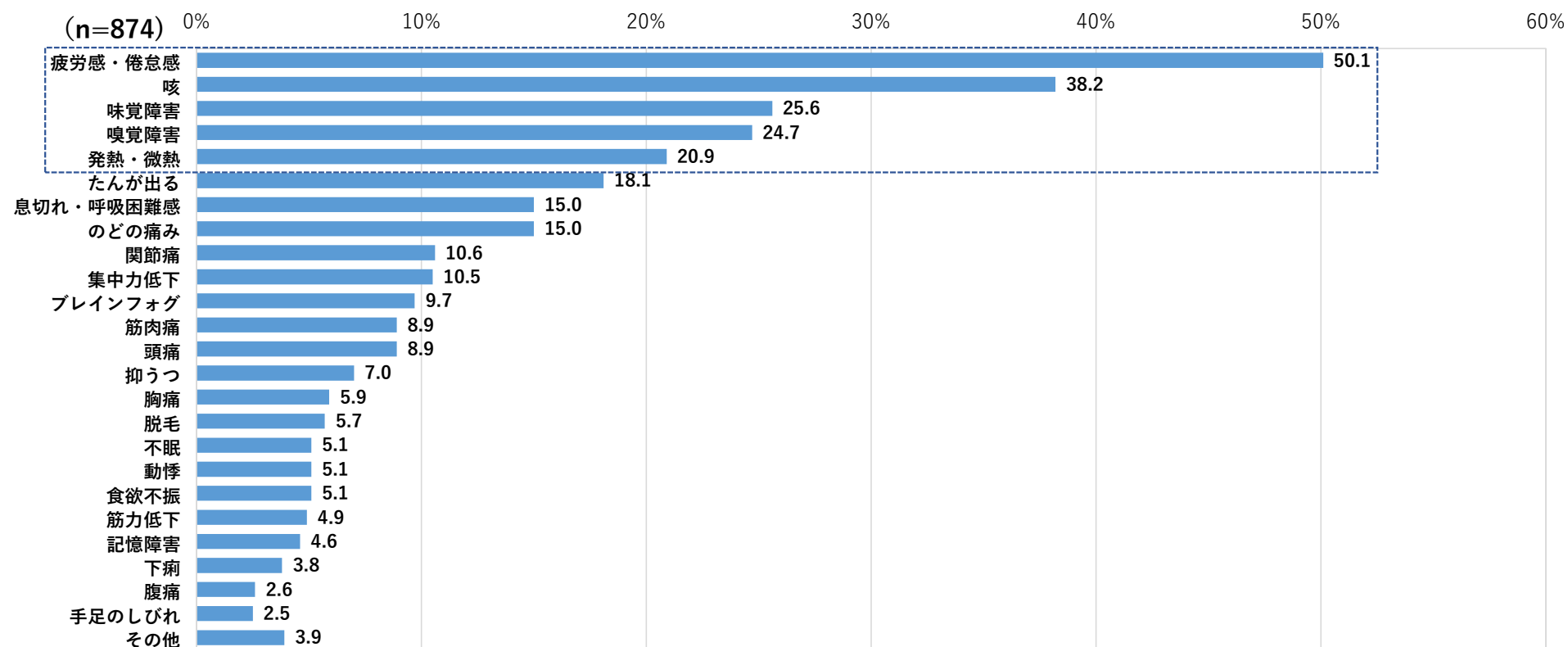
(新型コロナ陽性の判定経験がある方に) 新型コロナに感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状がありましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。



※2023年と2024年は「あった、なかった、わからない」の3択のみ

◆ 「感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状があった」の回答割合は **約20%** となっており **昨年2月調査から減少している**。

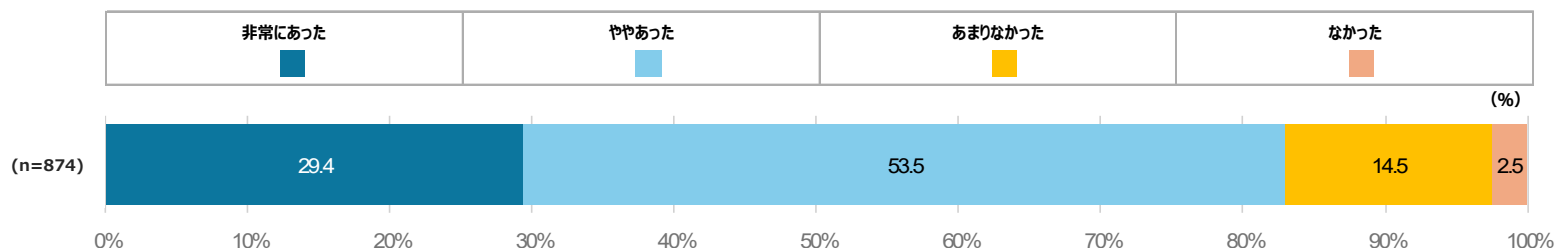
（後遺症を疑う症状があった方に）後遺症はどのような症状がありましたか。
あてはまるものを全て選んでください（複数回答）。



後遺症を疑う症状があったと回答した人のうち、

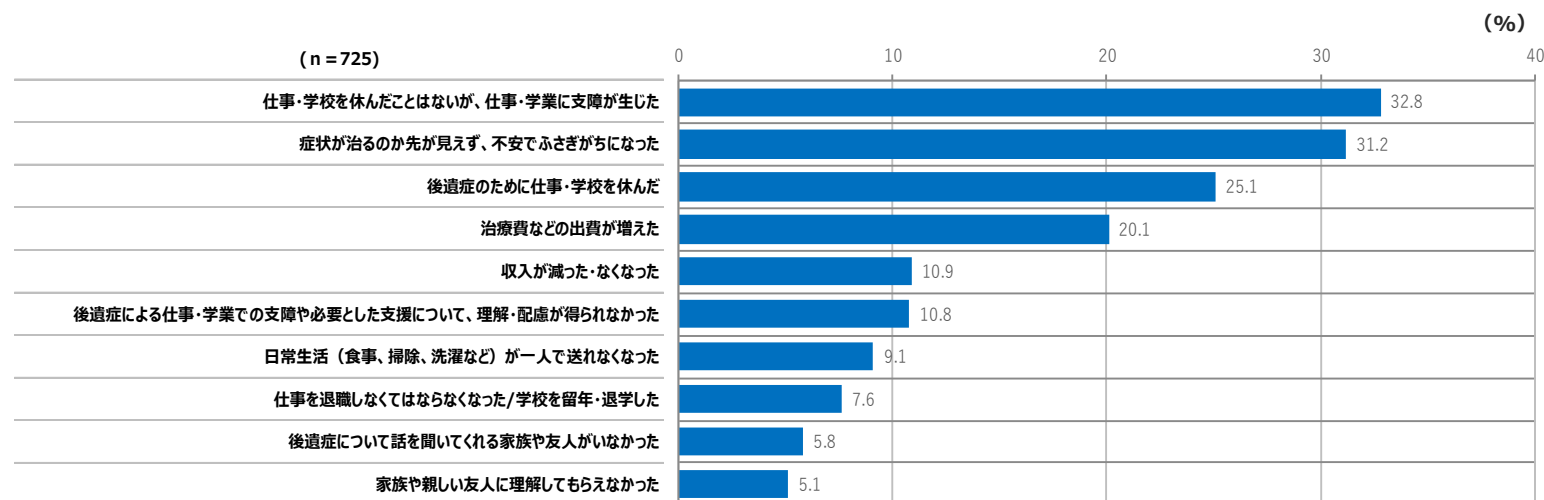
- ◆ 「疲労感・倦怠感」が約半数（50.1%）と最も多く、「咳」（38.2%）、「味覚障害」（25.6%）、「嗅覚障害」（24.7%）、「発熱・微熱」（20.9%）と続く。

（後遺症を疑う症状があった方に）後遺症の症状は日常生活にどの程度支障がありましたか。
あてはまるものをひとつ選んで下さい。



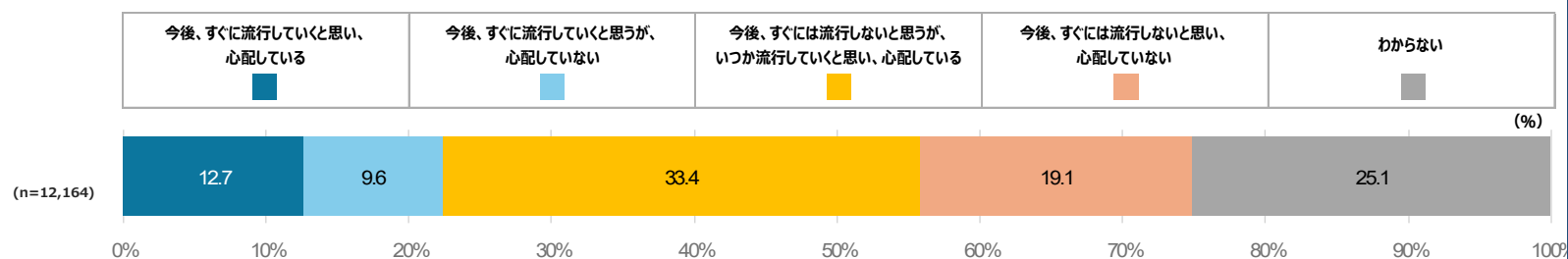
◆ 後遺症を疑う症状があったと回答した人のうち、後遺症による日常生活への支障が「非常に/ややあった」の回答割合は**82.9%**。

（後遺症の症状は日常生活に支障が「非常にあった」「ややあった」と答えた方に）後遺症となって、日常生活において、どのような困りごとや影響がありましたか。あてはまるもの全て選んでください（複数回答）。



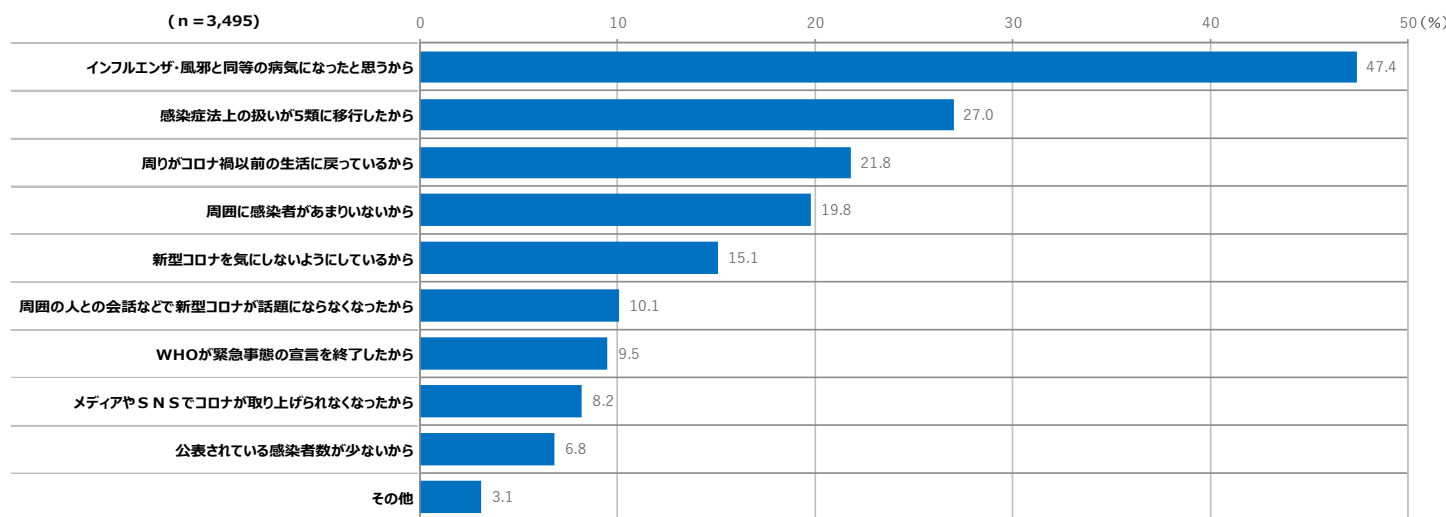
◆ 「仕事・学校を休んだことはないが、仕事・学業に支障が生じた」(**32.8%**)、「症状が治るのか先が見えず、不安でふさがちになった」(**31.2%**)、「後遺症のために仕事・学校を休んだ」(**25.1%**)、「治療費などの出費が増えた」(**20.1%**)などの順になっている。

新型コロナの感染状況は今後どうなると思いますか。あなたの気持ちにあてはまるものをひとつ選んで下さい。



◆ 「今後、すぐには流行しないと思うが、いつか流行していくと思い、心配している」
(33.4%) が最も高くなっている。

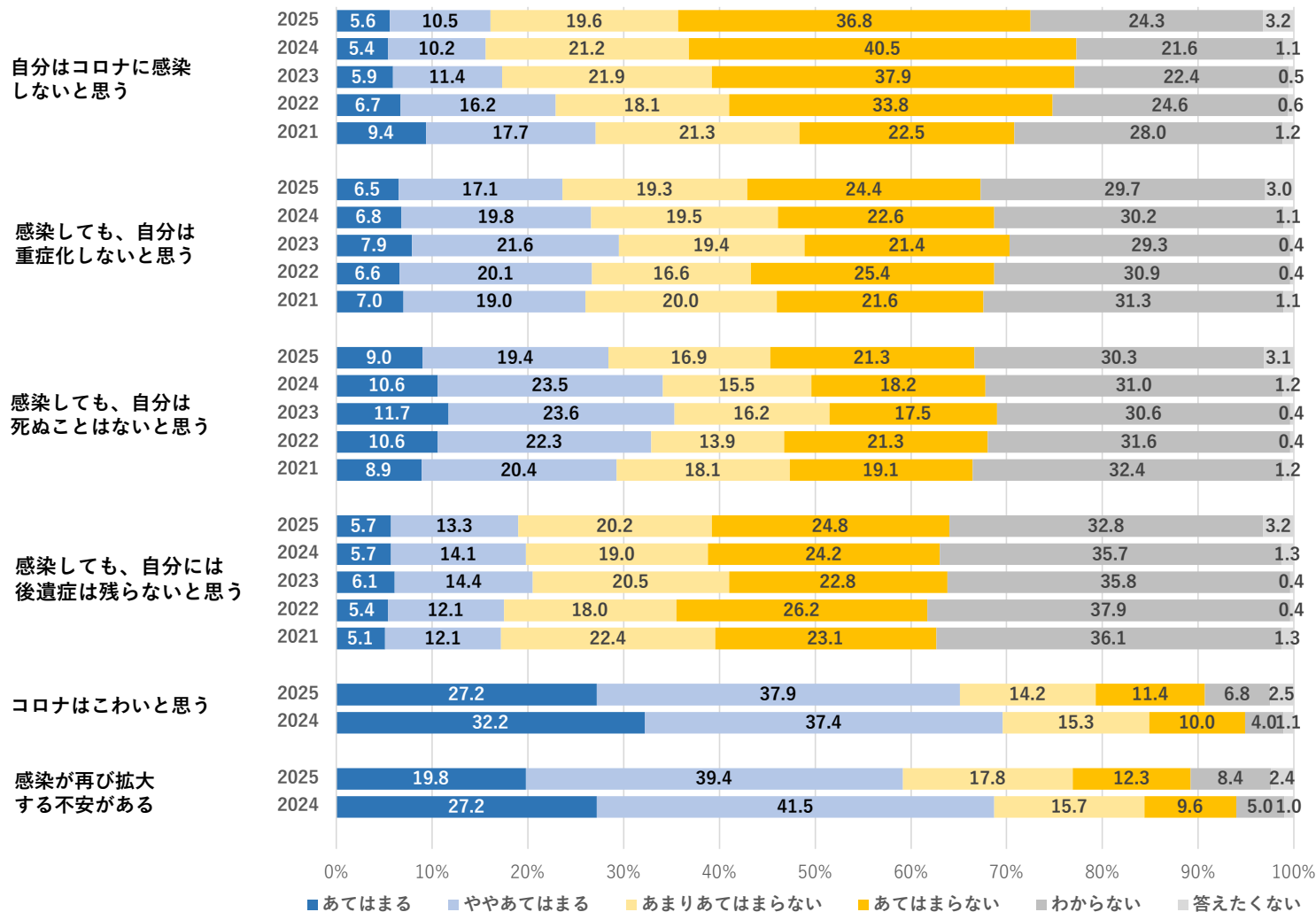
(今後の新型コロナの感染状況について「心配していない」と答えた方に)
あなたが心配しない理由として、あてはまるものを全て選んで下さい(複数回答)。



◆ 「インフルエンザ・風邪と同等の病気になったと思うから」
(47.4%) で最も高く、「感染症法上の扱いが5類に移行したから」
(27.0%)、「周りがコロナ禍以前の生活に戻っているから」
(21.8%)、「周囲に感染者があまりいないから」(19.8%)の順になっている。

新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(2025年：n=12,164) (2024年：n=10,531) (2023年：n=10,429) (2022年、2021年：n=10,000)



自分への感染や重症化などに関する意識について、**2021年から2025年までの経年変化**を捉えたところ、意識が顕著に低下していくといった傾向は見られない。

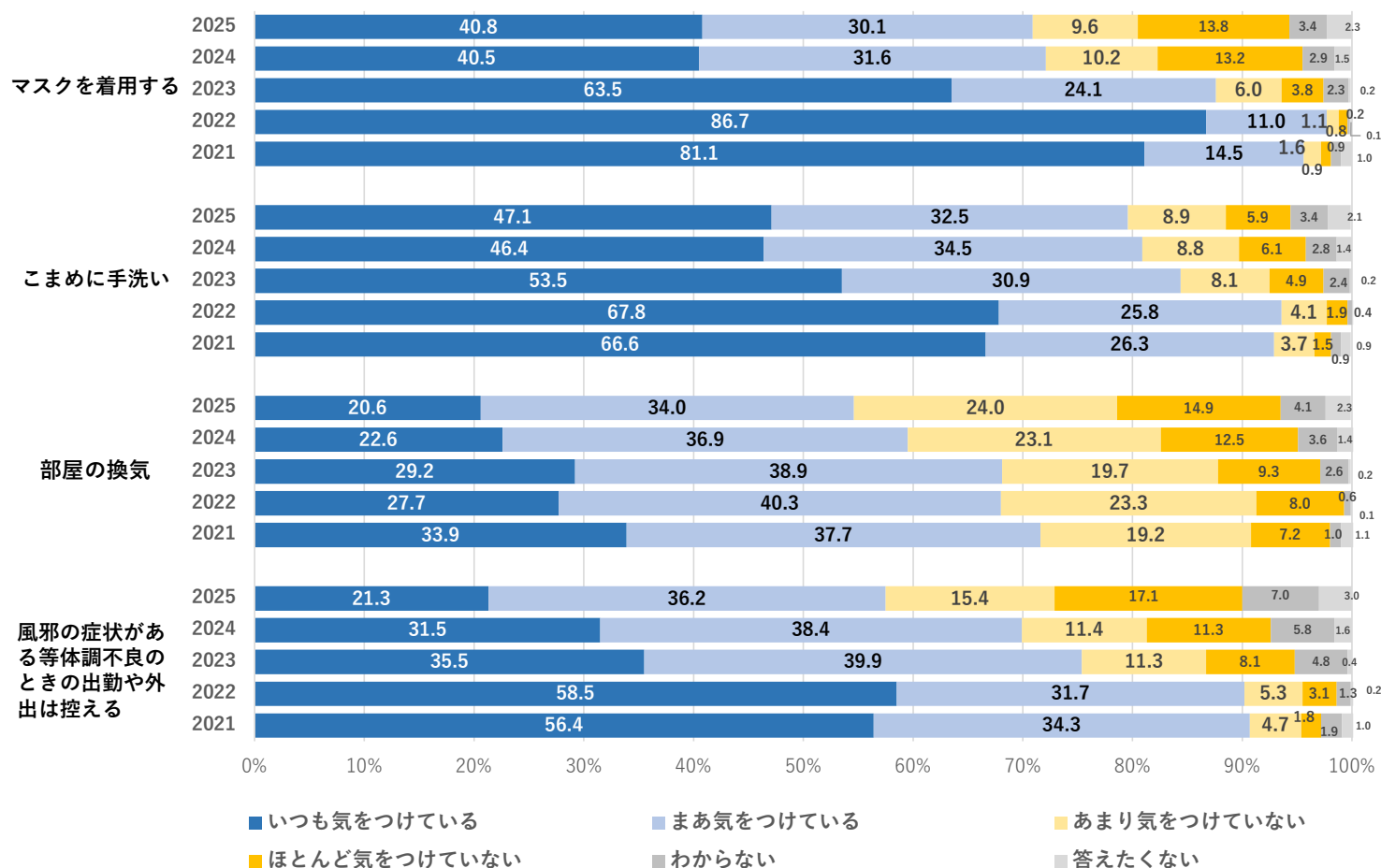
◆ 「自分はコロナに感染しないと思う」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は**約15%**。**2024年2月の調査結果から横ばい**となっている

◆ 「感染しても、自分は重症化しないと思う」、「感染しても、自分は死ぬことはないと思う」、「感染しても、自分には後遺症は残らないと思う」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は、**2023年2月の調査結果から減少傾向にある**。

◆ 「コロナは怖いと思う」、「感染が再び拡大する不安がある」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は**前回より減少**。

新型コロナだけでなく、感染症全般に関する対策について、現在のあなたにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(2025年：n=12,164) (2024年：n=10,531) (2023年：n=10,429) (2022年、2021年：n=10,000)



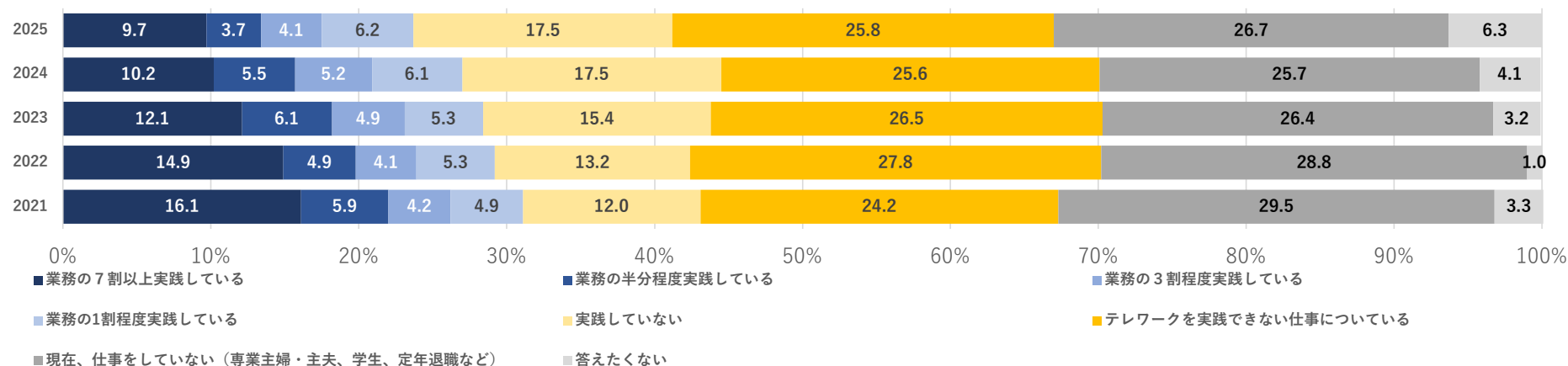
2021年から2025年の経年変化を捉えたところ、**実施割合は年々低下しているものの、基本的感染対策は約6割以上の方が実施している。**

- ◆ 「マスクを着用する」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約70%**。
- ◆ 「こまめに手洗い」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約80%**。
- ◆ 「部屋の換気」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約55%**。
- ◆ 「体調不良のときの出勤や外出は控える」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約60%**。

※2021～2023年調査では、「新型コロナの対策」に特化して尋ねているが、2024年調査では、「新型コロナを含む感染症全般」について尋ねた。
 ※2021年、2022年調査では、選択肢は「こまめに手を洗うか、消毒液を使用する」を使用。

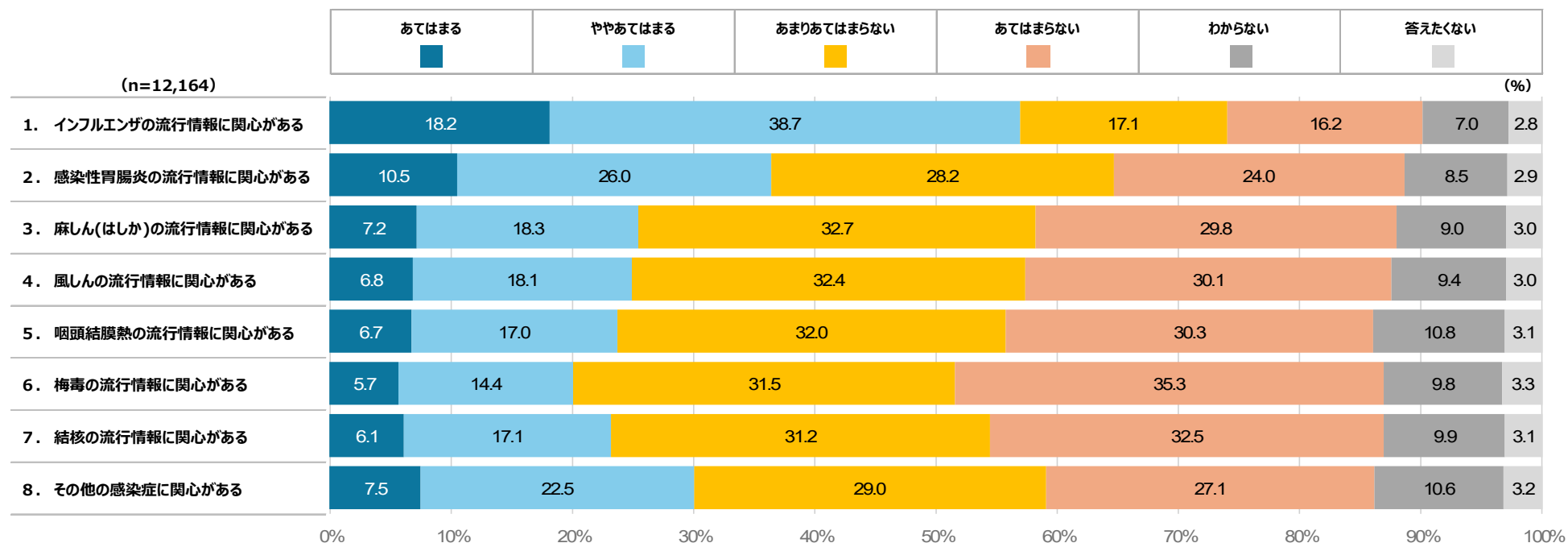
この1ヶ月、あなたはテレワークをどれくらい実践しましたか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。

(2025年：n=12,164) (2024年：n=10,531) (2023年：n=10,429) (2022年、2021年：n=10,000)



◆ テレワークを実践している人は約25%であり、昨年2月調査結果から減少している。（「テレワークを実践できない仕事についている」、「現在、仕事をしていない」の回答を除いた場合の割合は約50%）

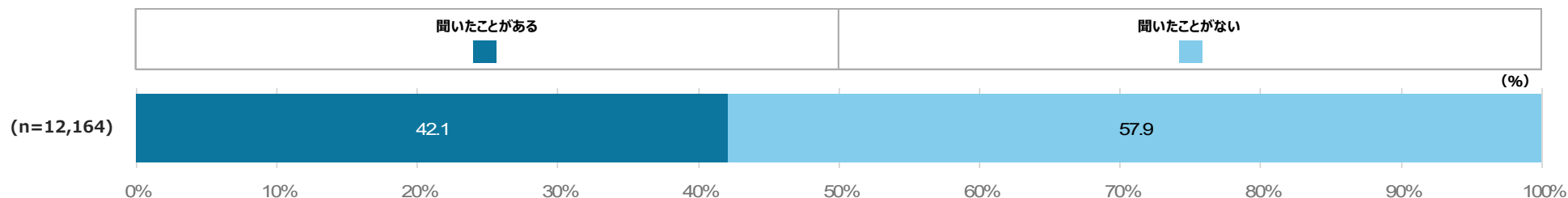
新型コロナ以外の感染症に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。



新型コロナの大流行を経験後の**2025年2月時点**では、インフルエンザ等の感染症に対して一定の関心が見られる。

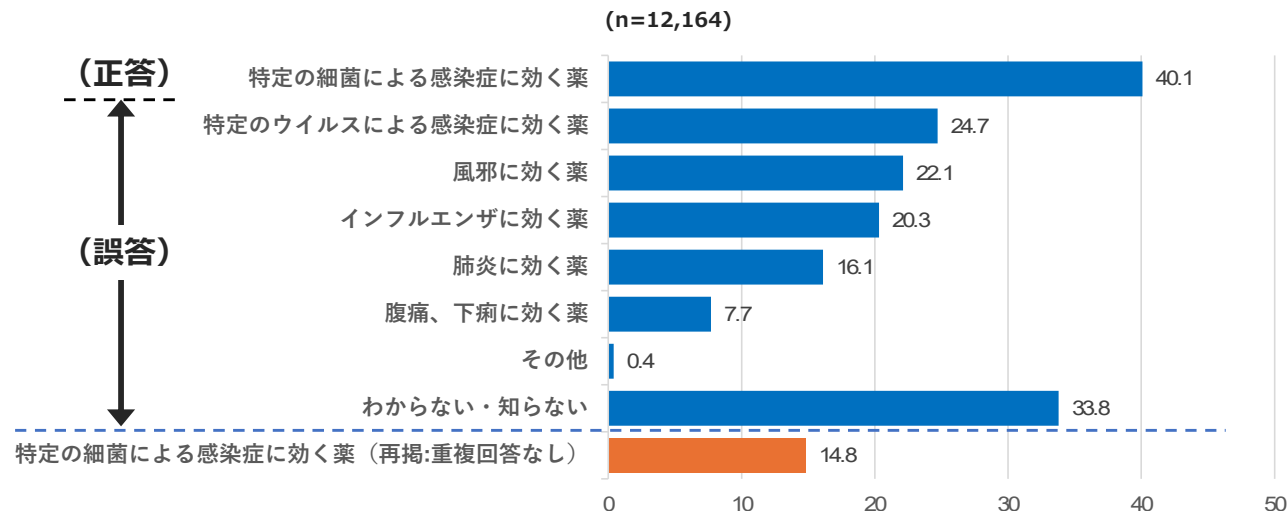
- ◆ 「インフルエンザの流行情報に関心がある」の回答割合は**約60%**。
- ◆ インフルエンザ以外の感染症について、「流行情報に関心がある」の回答割合は**約20~35%**。

薬剤耐性という言葉聞いたことがありますか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。



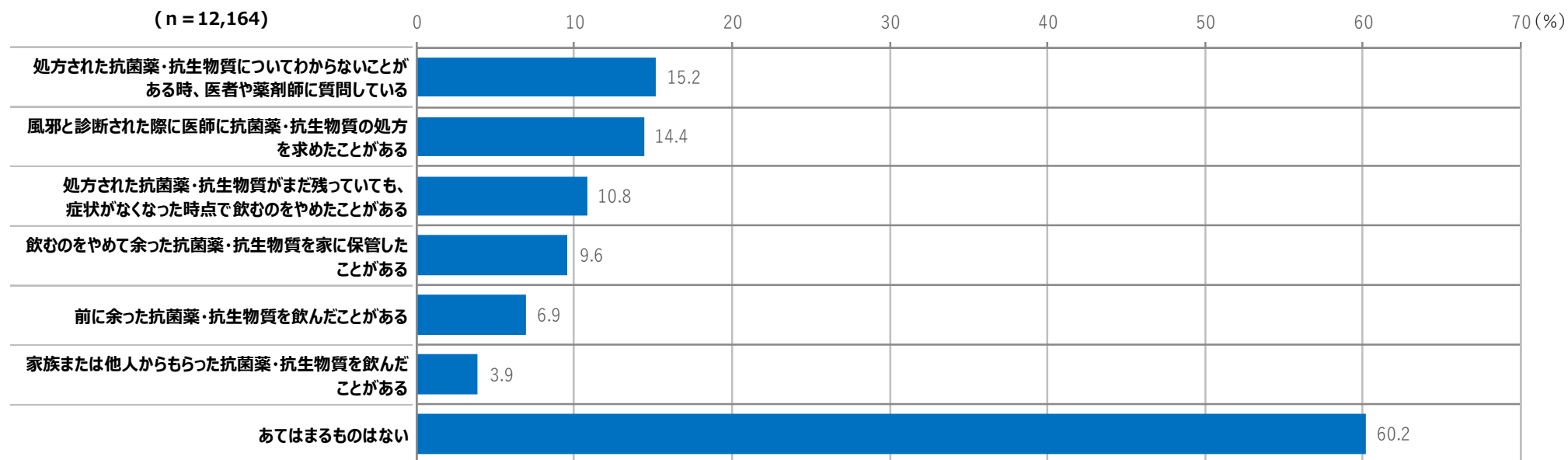
◆ 「聞いたことがある」 (42.1%) は約4割、「聞いたことがない」 (57.9%) は約6割となっている。

抗菌薬・抗生物質とはどのような薬だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください（複数回答）。



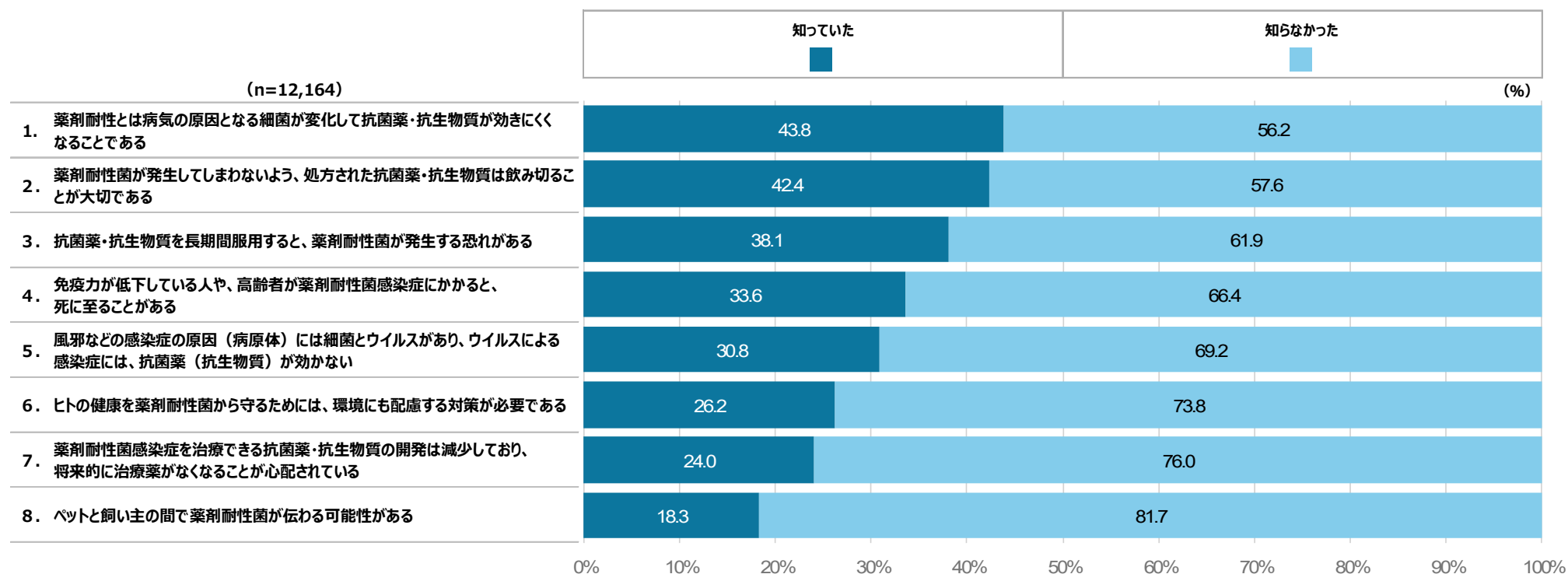
◆ 抗菌薬・抗生物質に対する認識は、「特定の細菌による感染症に効く薬」 (40.1%) と回答された内、重複回答していない（正しく理解している） (14.8%) の割合は、2割未満となっている。

抗菌薬・抗生物質について以下のような経験がありますか。あてはまるものを全て選んでください（複数回答）。



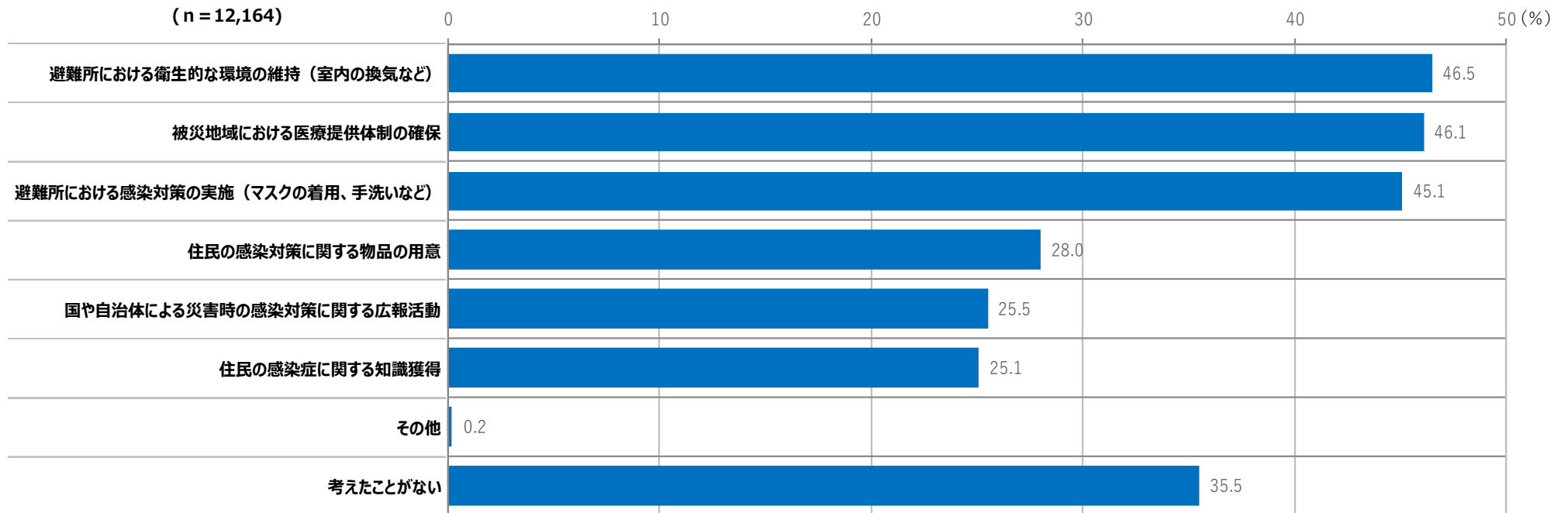
- ◆ 「処方された抗菌薬・抗生物質についてわからないことがある時、医者や薬剤師に質問している」（15.2%）、「風邪と診断された際に医師に抗菌薬・抗生物質の処方を求めたことがある」（14.4%）がともに1割強となっている。一方、「あてはまるものはない」（60.2%）は6割となっている。

薬剤耐性や抗菌薬・抗生物質についてあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。



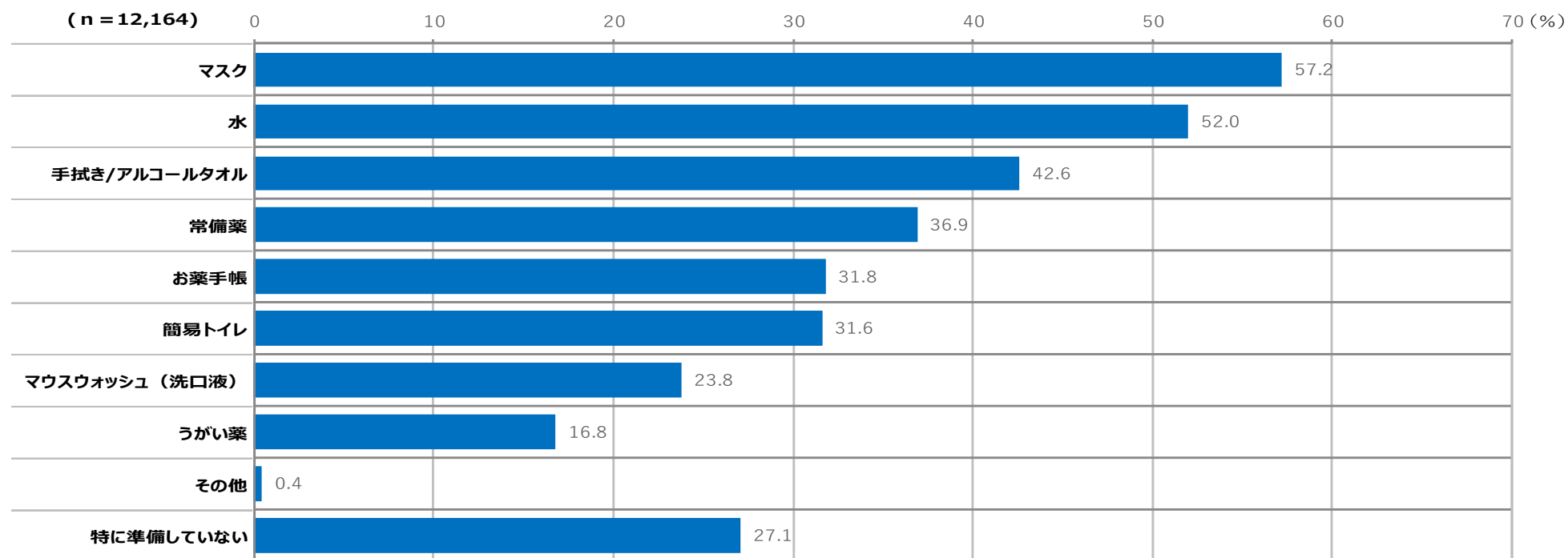
◆ 「知っていた」の回答割合は“薬剤耐性とは病気の原因となる細菌が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなることである”（43.8%）、“薬剤耐性菌が発生してしまわないよう、処方された抗菌薬・抗生物質は飲み切ることが大切である”（42.4%）、“抗菌薬・抗生物質を長期間服用すると、薬剤耐性菌が発生する恐れがある”（38.1%）の順となっているが、いずれも約4割にとどまっている。

大地震や台風など、大規模災害発生時の感染症対策であなたが重要だと思うものは何ですか。
あてはまるものを全て選んで下さい（複数回答）。



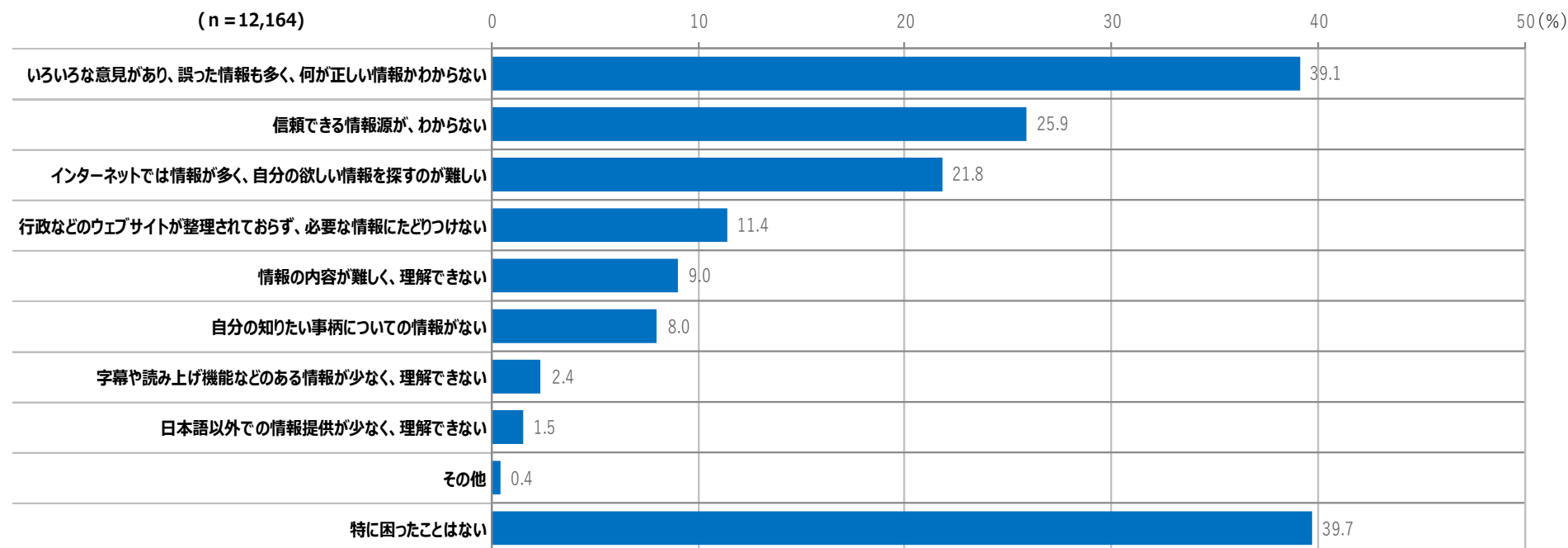
◆ 重要だと思うものは「避難所における衛生的な環境の維持（室内の換気など）」（**46.5%**）、「被災地域における医療提供体制の確保」（**46.1%**）、「避難所における感染対策の実施（マスクの着用、手洗いなど）」（**45.1%**）の順となってる。一方、「考えたことがない」は**35.5%**となっている。

災害発生時の感染症対策として、準備している物は何ですか。あてはまるものを全て選んで下さい（複数回答）。



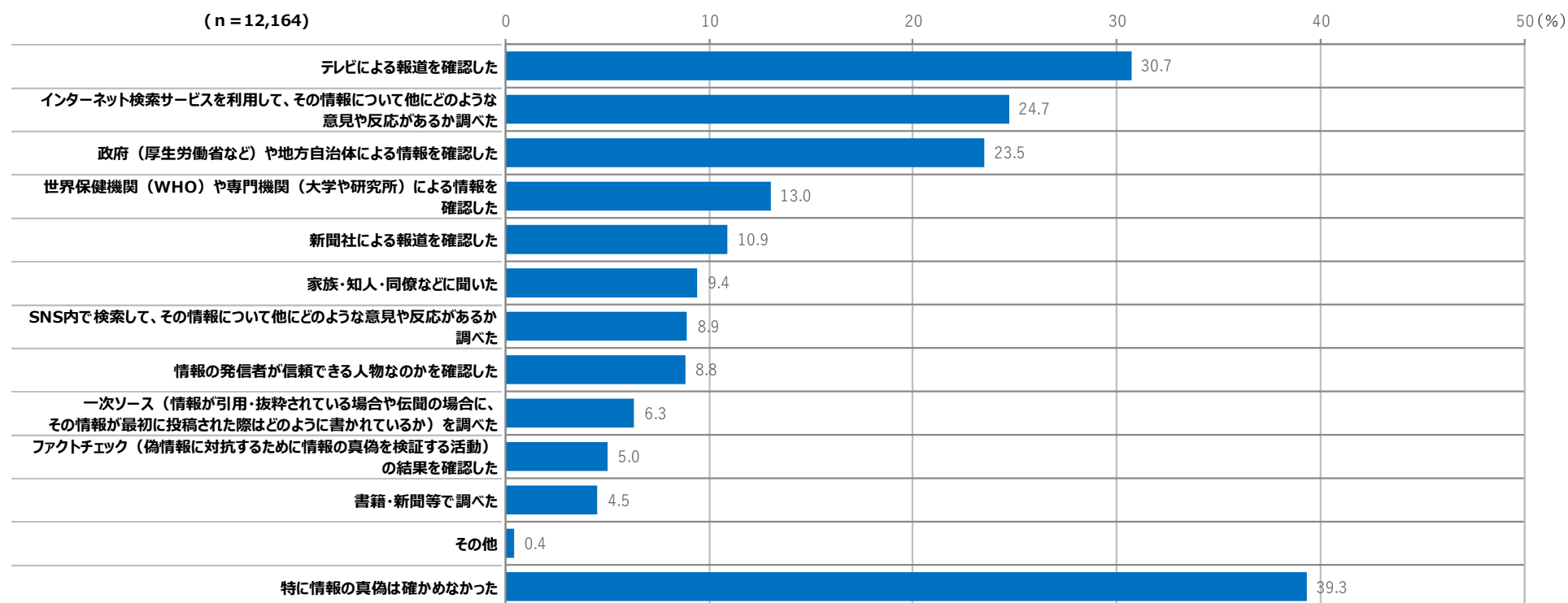
◆ 準備している物は「マスク」（57.2%）、「水」（52.0%）、「手拭き/アルコールタオル」（42.6%）の順となっている。一方、「特に準備していない」は27.1%となっている。

新型コロナを含む感染症の情報収集について、困ったことがありますか。
あてはまるものを全て選んで下さい（複数回答）。



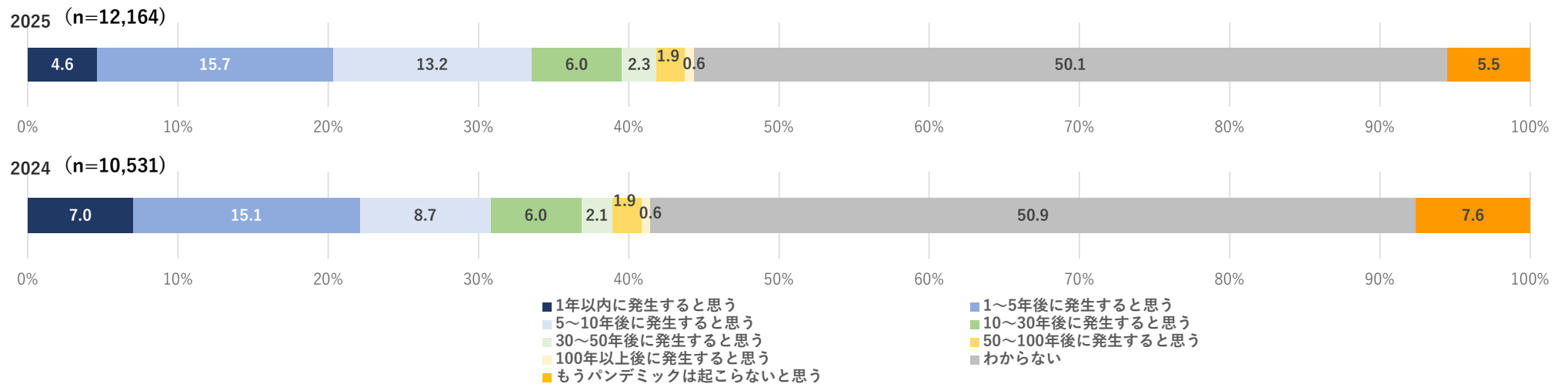
- ◆ 困ったこととしては「いろいろな意見があり、誤った情報も多く、何が正しい情報かわからない」（39.1%）、「信頼できる情報源が、わからない」（25.9%）、「インターネットでは情報が多く、自分の欲しい情報を探すのが難しい」（21.8%）の順になっている。一方、「特に困ったことはない」は39.7%となっている。

新型コロナに関する情報に関して、情報の真偽を調べる際にどのようにして確かめましたか。
あてはまるものを全て選んで下さい（複数回答）。



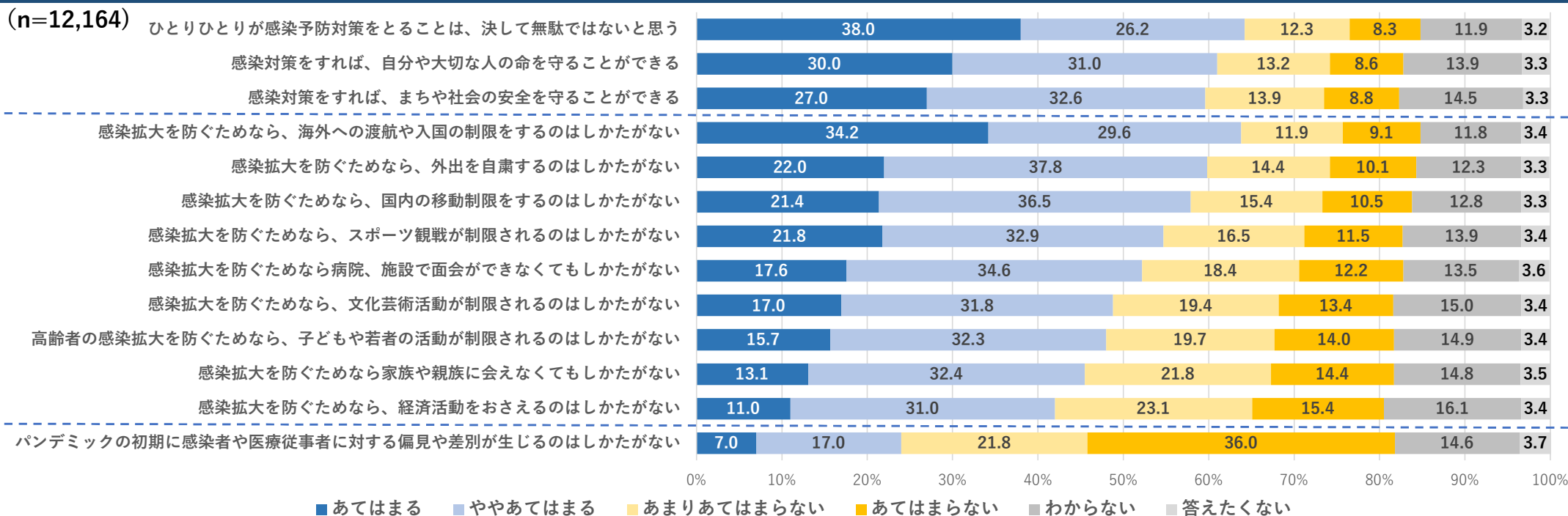
- ◆ 情報の真偽を確かめる方法としては「テレビによる報道を確認した」（30.7%）、「インターネット検索サービスを利用して、その情報について他にどのような意見や反応があるか調べた」（24.7%）、「政府（厚生労働省など）や地方自治体による情報を確認した」（23.5%）の順になっている。一方、「特に情報の真偽は確かめなかった」は39.3%となっている。

今後、何年以内に世界的な感染症の流行（パンデミック）が発生すると思いますか。
あてはまるものをひとつ選んで下さい。



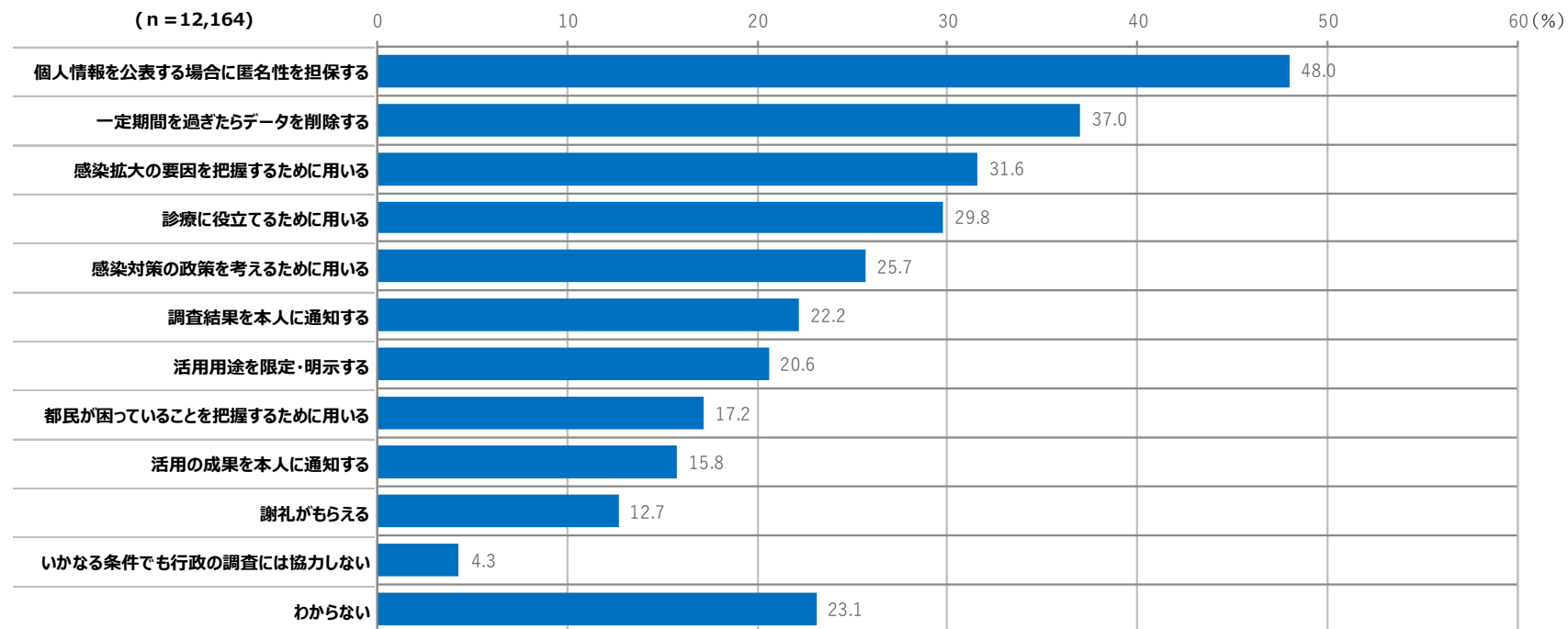
◆ 今後のパンデミックの発生については、「わからない」の回答割合は約50%、「発生すると思う」の回答割合は約45%。

今後、世界的な感染症の流行（パンデミック）が発生した際の対応に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。



- ◆ 「ひとりひとりが感染予防対策をとることは、決して無駄ではない」（64.2%）などについて「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合が高く、自分たちが行う感染対策の意義や有効性を認識している人が多い。
- ◆ 「感染拡大を防ぐためなら、海外への渡航や入国の制限をするのはしかたがない」（63.8%）、「感染拡大を防ぐためなら、外出を自粛するのはしかたがない」（59.8%）など、移動の制限に関する選択肢について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合が高い。
- ◆ 「感染者や医療従事者に対する偏見や差別が生じるのはしかたがない」に対して「あてはまらない/あまりあてはまらない」（57.8%）とする意見が多数を占める。

パンデミック発生時には、感染状況の把握や感染対策に役立てるため、行政が個人情報の提供を求めることがあります。どのような条件であれば協力できますか。あてはまるものを全て選んで下さい（複数回答）。



- ◆ 協力できる条件としては「個人情報を公表する場合に匿名性を担保する」（48.0%）、「一定期間を過ぎたらデータを削除する」（37.0%）、「感染拡大の要因を把握するために用いる」（31.6%）、「診療に役立てるために用いる」（29.8%）の順になっている。

<まとめ>

- 5 類移行から約 2 年が経過し、以前と比べ**新型コロナに対する不安も落ち着きつつあるが**、こまめな手洗いやマスクの着用などの**基本的な感染対策は約 6 割以上の人が実施している**。
- **薬剤耐性という言葉についての認知度は約 4 割にとどまる**。また、ウイルスによる感染症には抗菌薬、抗生物質が効かないといった、抗菌薬、抗生物質に関する**正しい知識も浸透していない**。
- 新型コロナを含む感染症の情報収集について困ったこととして、「**いろいろな意見があり、誤った情報も多く、何が正しい情報かわからない**」や「**信頼できる情報源がわからない**」という声が多い。
- 都民の約半数は再び何らかのパンデミックが発生すると考えている。また都民の多くはひとりひとりの**感染対策の意義や有効性を認識している**。
- **都は新型コロナを通じて得た知見を踏まえ、基本的な感染対策の普及啓発や、感染症に係る正確な情報発信等を通じ、都民ひいては社会全体の感染症対応力向上につなげていくことが必要**。